

信越化学工業株式会社

2020年3月期 第1四半期 電話会議要旨

日時	2019年7月24日(水) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	2020年3月期 第1四半期決算短信 2020年3月期 第1四半期決算説明資料

* このメモは電話会議でお話した内容をまとめたものです。

【挨拶、決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 当第1四半期の連結売上高は 3,862 億円 (前年同期比 1%増)、営業利益は 1,075 億円 (同 13%増)、経常利益は 1,089 億円 (同 10%増)、四半期純利益は 840 億円 (同 14%増)、1株当たり純利益は 202 円 (同 29 円増) ROIC は 21% (同 横ばい)、ROE は 13.6% (同 1ポイント上昇)
- 各セグメントとも対前四半期比で 2 桁の増益を達成。前四半期は個別の事情があった。(シンテックは大型定修に伴う費用や減産等で 110 億円、シリコンはタイ拠点での減損等で 30 億円、半導体シリコンは償却増等で 60 億円の減益要因。)
- 今期通期の業績予想は、連結売上高は 1 兆 5,500 億円、営業利益は 4,050 億円、経常利益は 4,180 億円、当期純利益は 3,140 億円。
- 今期の年間配当金は、前期より 20 円増配の 1 株当たり 220 円を予想。

【各セグメント概要説明 (広報部長 足立幸仁)】

➤ 塩ビ・化成品事業

【売上高 1,228 億円 (前年同期比 微減)、営業利益 253 億円 (同 4%減)】

- 米国のシンテック社の第1四半期(1-3月期)は塩ビ、苛性ソーダともに市況の影響があったが、高水準の出荷を継続。
- シンエツ PVC 社(オランダ)の1-3月期の出荷は堅調。
- 日本の塩ビ事業は、定期修理の規模が前年同期よりも小規模だったため、販売量を伸ばした。

➤ シリコン事業

【売上高 563 億円〈前年同期比 1%増〉、営業利益 159 億円〈同 18%増〉】

- 汎用製品は価格下落の影響を受けたが、機能製品を中心に拡販に努め、出荷は堅調。

➤ 機能性化学品事業

【売上高 289 億円〈前年同期比 5%減〉、営業利益 75 億円〈同 10%増〉】

- セルロース事業は、建材向けや塗料用製品が一部の地域でふるわなかったが、医薬用製品が堅調に推移。

- フェロモンやポパール製品も堅調な出荷。

➤ 半導体シリコン事業

【売上高 990 億円〈前年同期比 9%増〉、営業利益 394 億円〈同 31%増〉】

- 半導体デバイス市場に軟化の動きが見られたが、高水準の出荷を維持。

➤ 電子・機能材料事業

【売上高 547 億円〈前年同期比 2%減〉、営業利益 166 億円〈同 4%増〉】

- 希土類磁石は、ハイブリッド車をはじめとする自動車向けは堅調、一方で産業機器向けや HDD 向けが需要鈍化の影響を受けた。

- フォトレジストは、ArF レジストが好調に推移。

- マスクブランクスは、先端品、汎用品それぞれが販売を伸ばした。

- 光ファイバー用プリフォームは、市場の急激な悪化により厳しい状況。

➤ 加工・商事・技術サービス事業

【売上高 242 億円〈前年同期比 11%減〉、営業利益 35 億円〈同 18%増〉】

- 信越ポリマー社は自動車用の入力デバイスは堅調、一方で半導体ウエハー関連容器が顧客での在庫調整の影響を受けた。

[今期業績予想の補足説明]

- 今期業績予想の前提となる為替レートは、7月以降 1US\$ = 108 円、1€ = 122 円。
- 経常利益の為替感応度は US\$ で 27 億円（国内会社の輸出入で 17 億円、海外子会社の換算で 10 億円）、€ で 3 億円。
- 今期の設備投資額は、期初予想の 3,000 億円から変更なし。減価償却額は、半導体シリコンでの増設設備の稼働時期を一部繰り延べしている影響などもあり、期初予想より少ない 1,500 億円。
- 今期の通期業績予想値は、製品の需要、市況、為替など多くの変動要因を含んでおり、実際の業績と異なる可能性があることをご理解いただきたい。

【質疑応答】

〈塩ビ・化成品〉

Q	塩ビと苛性ソーダの市場環境について
A	<p>(塩ビに関して)</p> <ul style="list-style-type: none">・1-6月は、当社はフル生産フル販売を達成し、販売量は前年とほぼ同じ状況です。一方、他社を含めた北米の統計では、▲3%減となっており、当社がシェアを広げています。・塩ビの市況は、北米内は値上げを通すことができ、底堅く推移しています。北米以外の市場は地域により強弱がありますが、値段が崩れるような状況はありません。全般的に見て、比較的落ちついていると言えます。 <p>(苛性ソーダに関して)</p> <ul style="list-style-type: none">・インド問題が解決し、ブラジルの大手需要家が稼働を再開したので、市況が回復しなければいけませんが、中国から余分な数量が出ており、海外市況は冴えない状況です。ただ、これがズルズル下がることはないと考えています。ソーダの市場は懐が深いので、数量はきちっと売り切っています。あとはいかに高く売るかということで日々取り組んでいる状況です。
Q	シンテックの1-3月の状況と、4-6月の見通しについて。
A	北米の塩ビ市況の動きは、2月に+2¢、4月に▲2¢、6月に+2¢。一方、エチレン市況は、スポット価格に表れているような状況が続いているので、ある程度のスプレッドの改善がなされました。ただ、去年と比べれば、やや見劣りする状況です。
Q	シンテックのエチレンプラントの稼働時期について
A	現在、最後の詰め作業を行っているところです。部分的に問題が出ていることは事実です。当社にとって初めてのエチレンプラントですので、安全第一に確実に立ち上げを行います。なお、今期の償却費の中にエチレンプラントの稼働分も織り込んでいます。
Q	中国での環境規制について
A	中国の環境規制で、既に廃棄、閉鎖された塩ビの工場が再開するということは起きていません。一時的な閉鎖なのか永久的なのかについて、当社も注視しています。現時点で新たに工場が閉鎖されるということは起きていないと理解しており、昨年と今年の実力はあまり変わっていないと思います。

〈シリコーン〉

Q	前四半期比、減収増益の理由について
A	<ul style="list-style-type: none">・（機能品が多い）信越化学本体（日本）は、国内・輸出ともに前四半期比で販売が増えており、その結果、利益も増えています。・一方、海外拠点は決算期がずれており、当第1四半期には海外の1—3月の決算が入っています。売上が減っている要因として、タイの拠点において2月に定修を行ったため、生産、販売数量ともに前四半期（10—12月）に比べて落ちています。また、海外全般に10—12月は非常に調子が良かったので、その分1—3月は落ち込みが大きくなっています。

〈半導体シリコン〉

Q	4—6月のマーケットの状況と7—9月以降の見方、増収増益の背景について
A	<ul style="list-style-type: none">・4—6月の世界ウエハーマーケットは、前年同期と比較して全体ではマイナス成長でした。口径別では、300mmは微増ですが、200mm及び150mm以下の小口径は大きく減少しました。1—3月との比較では、これも全体ではマイナス成長で、口径別では、300mmはほぼ横ばい、200mm及び150mm以下は微減となりました。・7月以降の見込みですが、通常の半導体循環論、電子機器生産サイクルの経験則だけでは見通しづらくなっています。サプライチェーンの混乱やそれに伴う在庫積み増し需要の発生などいろいろな要素が絡まり非常に読みづらい状況です。また過去2年間半導体業界は好調でしたが、その反動も出ていると思われる。在庫調整は電子機器、デバイス、ウエハーの順で来ると見ており、ウエハーの在庫調整は少し時間がかかると見ています。依然、ウエハー在庫は多いと見られていますが、ここにきて顧客間でばらつきが生じており、まだら模様の状況を呈しています。・第1四半期の前年同期比での増益要因は、ウエハーの価格値戻しが主な要因です。
Q	4—6月の稼働率について
A	<ul style="list-style-type: none">・300mmは高稼働ですが、200mm以下については、昨年、一昨年と比べて稼働率は下がっています。メモリメーカーが今年後半の回復に対して少しトーンを下げてきていますので、当社もそれに対応して手を打っていくことになろうかと思っています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・4-6月の在庫水準は、1-3月に対しやや上がってきています。
Q	事業を取り巻く環境について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリのビット需要は確実に反転しています。例えば NAND では、1月をボトムに急回復していますし、DRAM のビット需要も緩やかな回復傾向にあります。 ・データセンター向け需要はこの1年弱あまり奮いませんでしたが、後半は少し投資が始まるのではとの見方もあります。半導体デバイス需要につながるデータセンターへの投資が上向くことを期待しています。
Q	(長期) 契約について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期契約 (300mm) ですが、2019 年は 95%以上、2020 年はまだ全体がはっきり見通せませんが高い比率となると思われます。 ・契約履行の状況ですが、一部の顧客から短期的な納入繰り延べ要請があり、対応したところもあります。契約価格については、全ての顧客にて遵守いただいている状況です。 ・長期契約の内容は個別に取り決めており一様ではありません。
Q	設備投資について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資については、各顧客と協議し、逐次対応する方針です。 ・償却費の増減については、今後の状況によります。 ・グリーンフィールドでの増設については、従前より検討は行っています。ただ、現状マーケットが停滞気味であり、またウエハーメーカー各社も増強していますので、慎重にならざるを得ません。

〈全 社〉

Q	韓国向け輸出規制の変更について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の製品群の中で規制の対象になったのは、レジストのごく一部で、今まさに申請の手続きを進めているところです。個別に輸出許可を取ることは経験しており、要領もわかっているつもりです。売上規模はまだ大きくありませんが、当社にとって力を入れている製品なので、手続きを1日も早く終了させて、お客様にご迷惑のかからないように取り組んでいます。 ・韓国のホワイト国認定が外れる、或いは第二弾 (規制対象品目の追加) などの可能性があると言われてはいますが、当社としては当然対策を考え、お客様とも

	相談をして、現時点で打てる手を打っていきます。お客様との連絡を密にして、出来ることをお互いにやっていくこととなります。
Q	株主還元の考え方について
A	配当の考え方は、従来と変わっていません。「長期に安定的に」ということを前提としています。(過去 10 年間の配当性向の平均) 35%という数字に言及したことがあります。今でもそういう数字を参照しながら配当水準を考えています。
Q	有価証券売却益について
A	いわゆる政策保有株式の一部を売却したものです。